

平成 30 年度 第 6 回レフェリーアカデミーを終えて

氏名	島村 奈央美	所属	福岡県
期日	平成 31 年 3 月 15 日 (土) 16 (日)		
会場	駒沢体育館		
大会名	第 43 回 JHL プレーオフ		
研修内容	第 43 回 JHL プレーオフの観戦及び JHL ジュニアリーグの男女決勝戦を担当する		
第 6 回 テーマ	①『レフェリーとしての立ち振る舞い（正しいジェスチャー）を身につける』 ②ジュニアに対して、丁寧に謙虚な姿勢をコートの上で表現する。		

反省

①ジュニアリーグを担当して or リザーブとしてジュニアリーグを担当して

今回は怪我で実技ができず、リザーブとしての割り当てでもありませんでしたが、担当している方々と一緒に行動させてもらい、試合までの準備や試合中の取り組みを確認することができた。ゲームにおいては、スローオフの笛のタイミングやパッシブプレーの予告のタイミングに難しさを感じたり、小学生へ丁寧にコミュニケーションをとる場面がみられたり、自分自身も学ぶことがあり、次に繋げたいと思いました。

また、J クイックハンドボールのゲームを担当したことがありませんでしたが、第 6 回の事前課題で競技規則を確認したり、プレゼンを聞いてアカデミー生で質疑応答をしたりすることができ、J クイックハンドボールの理解を深めることができました。

②プレーオフを観戦して

初めてプレーオフを会場で観戦しました。満員の観客席や盛り上がるアナウンスなど、緊張感ある大会において、トップレフェリーの方々のアップの様子やレフェリングを見ることができ、憧れとともに意欲も高まりました。

ゲームにおいては、第 5 回のテーマにあった、「インフォメーション」「ボディランゲージ」をとくに意識しながら観戦しました。ジェスチャーひとつひとつに力強さがあり、説得力をもつことをとても感じました。自分は身体が小さいので、力強く大きなジェスチャーを意識して取り組んでいきたいです。コミュニケーションをとる場面も多くみられました。ゲームに影響のないような位置であったり、タイミングであったり、学ぶことが多くありました。トップ選手、チームとの信頼関係は日頃からのレフェリングにあるものであり、自分がすぐに築けるものではないので、謙虚な姿勢を忘れず、選手、チームが 100%の力を発揮できるよう、このレフェリーになら任せられると思ってもらえるように努めていきたいです。

また、最後の一投の場面での選手交代の退場があり、交代した選手が打つことがなく退場という起こることが少ない状況でもあったので、貴重なゲームを見ることができたと思います。レフェリーだけでなく、TD としてゲームに関わることもあると思うので、落ち着いて対応できるようにしていきたいです。

日本のトップのゲームを観戦する機会を与えていただいたことに感謝し、今回学んだこと、感じたことを必ず自分自身のレフェリングに繋げていきたいと思っています。また、大会開催にあたって、多くの方が関わってくださっていること、支えてくださっていることを忘れずに、この環境に感謝して審判活動をしていこうと思いました。

③1 年間の学び

この 1 年間で振り返り、レフェリングに対する意識が高まったことをとても感じています。何か疑問点があれば、競技規則を開いたり、アカデミー生で共有したりすることが増えました。また、指導者の方々から多くのアドバイスをいただいたり、映像分析やプレゼン作成など、今まで経験したことのないことをさせていただいたり、自分自身の引き出しを増やすことができたと思います。

年間を通してテーマであった、「レフェリーとしての立ち振る舞い（正しいジェスチャーを身につけること）」は、身につけてきていると思っています。注意をする場面や警告を与えるときは、ゲームの展開を止めないように心掛け、自分自身の課題であった立ち姿や走り方を意識して、スムーズかつスマートなレフェリングをしていく。また、インフォメーション・ボディランゲージのプレゼン後、それ

ぞれについての自分の考えを見直せたことが大きな変化でした。選手に伝えるためにそれぞれを用いてゲームを進めていく中で、選手に怪我をさせないため、罰則を出さないため、罰則時に示すことが求められている。モダンハンドボールを正しく理解し、罰則を出さないことが良いということではなく、許されないものは許されない、罰則を出すときはしっかり伝え、プレーが罰則になる前に基準をしっかり伝える必要がある。伝えたつもりや一方通行にならないよう、思い切ってゲームを止めたり、強い笛を吹いたりなど工夫をしていかなければならない。そして、同じプレーでも同じカテゴリーでも、影響があるかどうかの見極めを確実にを行い、ジュニアにおいては、丁寧に威圧的にならないようなコミュニケーションの取り方が必要であると思います。

半年間実技の参加ができず、他のアカデミー生のレフェリングを見ることが多くありました。周りがかんどんスキルアップしていく中で、自分自身がどれだけものにできているか不安な部分がたくさんあり、悔しさも感じています。この経験や気持ちを無駄にすることなく、しっかりと次年度に繋げていきたいと思います。また、ボディコントロールを怠らず、怪我の再発予防にも努め、常にベストなコンディションでレフェリングができるようトレーニングをしていきたいと思います。

アカデミー生であることに自覚と責任のある行動を心掛け、感謝の気持ちをもって取り組んでいきます。アカデミーの場だけでなく、学んだことを地元で発揮・貢献していくことが必要であり、各ゲームにおいて目標をもって取り組み、選手や監督、観客の方々にも信頼されるレフェリーを目指していきます。